



いよいよ6月になりましたね。暑い日が続いていますが、皆様、体調は変わりないですか？6月と言えば、『梅雨』シーズン。雨の日が続くと、お外で遊べなくてモヤモヤしたり、大人も子どももしんどくなったりしまいがちですよ。できるだけ雨の降っていない日は、お外で遊んだり、お散歩に出かけたり…と、お子さんのパワーを発散させてあげましょう。また、室内でも折り紙あそびやお絵かき、クッキングや粘土あそびなど、時間をつくって親子で一緒に遊べるといいですね。



～さまざまに思いをめぐらせて自ら解決策を見つけ出す～

思いをめぐらせる力を育てるために

「運動会の種目が竹馬になった。ボクにはできそうもない」と感じて、ひるんで参加しなくなってしまうならば、4歳児クラスのとおりです。5歳児クラスの子供たちは、「できないかもしれない。だけど、4歳児クラスのとおり、縄跳びができないと思っていたけれど、一生懸命練習したらできるようになった。だから竹馬だって、練習すればきっとできるようになるだろう」と考えて、前向きにチャレンジするようになります。「どうすればよいのか」を考えるために、複数の判断を結びつける接着剤の役割を果たしてくれるのは、それまでの経験です。

しかし、経験さえすれば、その経験が今に生かされるのかというと、必ずしもそうとは言えません。過去の経験が呼び起こされ活用されるか、思い出されないまま埋もれてしまうのかというちがいがありそうです。

「今度の家族旅行には、どこに行きたい？」とたずねたとき、子どもが「わからない」と答えて会話が終わってしまうことがあります。おとなは「自分の意見を言えるようになることこそ考えることだ」と思うので、すぐに意見を求めがちです。しかし、軽い質問であっても、意見を求められたときには人間は緊張します。「わからない」と答えるのは、軽い緊張が生じて、子どもの思考が止まってしまった姿だと言えるでしょう。いきなり意見を求めるのではなく、過去の思い出をよみがえらせるように言葉をかけるならば、子どもの思いがめぐりはじめます。

親「去年の家族旅行は、どこに行ったっけ?」
 子ども「〇〇山に行った」
 親「そうだったね。△△ちゃんは、一番てっぺんまでのぼったよね」
 子ども「あのね、すごく疲れたけどね、おもしろかった」
 親「そうか。じゃあ、今年はどこに旅行に行こうかな?」
 子ども「こんどは海に行きたい」

このように、過去を呼び起こす会話をしたときに子どもの思考力はめぐりはじめ、その結果として意見を言えるようになるでしょう。あとで活用されるように経験を自覚的に記憶するためにも、やはり言葉が必要です。山の頂上まで登ったあとで、

親「△△ちゃん、すごかったねえ。おとうさんよりも早く登っちゃったもんね」
 子ども「だって、お父さん、すごく遅い」

……というように、経験の直後に簡単な会話で感想を述べ合うならば、会話によって経験が自覚化されるので、あとで引き起こされやすい記憶として、子どもの心の中にしまわれるでしょう。

忙しい日常生活。指示する言葉が多くなりがちです。夕飯のときやお風呂に入っているときなど、子どもといっしょの時間をとれるときには、思い出話や感想を語り合うとよいと思います。そうすることによって、言葉で考える力は思いをめぐらせる力となり、かしこさとして育っていくのではないのでしょうか。

はじめての子育て 育ちのきほん 0歳から6歳 / 神田英雄 著



さくらんぼ① 7月9日・7月30日【ﾌｰﾙ】をします!

さくらんぼ② 7月23日【ﾌｰﾙ】をします!

※雨の日は【サーキット】をします

〈持ってくるもの〉 水着・水泳帽子・タオル・着替え・水筒



『参加される皆様へ』 ~ご協力をお願いします~

- ・お休みをされる場合は、学園までご連絡ください
- ・おやつ代100円いただきます。おつりのいらないよう、ご用意ください
- ・靴は、下駄箱に入れて下さい
- ・水分補給のため、お茶を持ってきて下さい(ジュース類は避けてください)
- ・ケガ防止のため、爪を切ってきてください